



「一人ひとりの Well-being を実現する未来の教育」

校長 渡部 智昭

11月に入ります。10月後半より朝晩涼しくなってきました。日中との気温差が大きくなり、服装や体調管理に気をつかうようになってきました。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症も一部で患者数が多くなり、学級閉鎖や学年閉鎖の出ている学校もあります。宮前中でも感染症による欠席者が少し増えてきています。学校ではマスクを着用している生徒が多く予防に努めています。今後も、換気や手洗い、うがいなど感染拡大の予防に十分気をつけて活動を行っていききたいと思います。

さて、10月20日(金)に研究発表会を行いました。当日は、さいたま市教育委員会より指導主事を招聘し、市内の先生方や埼玉大学の学生など多くの参観者にいただきました。本校は、令和4年度・5年度の2年間さいたま市教育委員会より研究領域「一人ひとりの Well-being を実現する未来の教育」についての研究で研究指定を受けました。研究主題を「学びを楽しみ、他者と協働し、挑戦し続ける生徒の育成」～ICTを効果的に活用した魅力ある授業を目指して～と定め、各教科で様々な実践を行ってきました。その成果を、理科(1年)、技術・家庭科(2年)、G・S(グローバル・スタディ)(3年)、自立活動(特別支援学級)で発表しました。授業公開後体育館で全体会を行い、研究主任の先生より研究についての説明を行いました。続いて教科ごとに分科会を行い、研究協議をして指導者より指導講評をいただきました。

「生徒一人ひとりを大切にしたい授業」、「他者と力を合わせて課題解決に取り組む授業」、「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」を通して、課題の解決に向け、「失敗を恐れず挑戦し続ける生徒の育成」を図るため、お互いに授業を見あう「宮前中ブラッシュアップ計画」や「ビデオ研修」、「タブレットPC活用マニュアルや授業実践報告シートの作成」など様々な実践を続けました。また、さいたま市教育委員会で取り組んでいます、「学びのポイント」「じ・し・ゃ・く」の4つの項目を取り入れた授業を行い、主体的・対話的で深い学びにも取り組んでいます。(学びのポイントについて詳細はさいたま市教育研究所ホームページに掲載されています)

宮前中では、タブレット端末の活用率が高く、多くの時間活用されています。研究を通じて、先生方の指導力向上を図り、生徒の資質向上並びに学力向上に役立てています。研究発表会参加者の方々からいただいたご意見感想等を活かし、これからも研究・修養に努めてまいりたいと思います。また、保護者、地域の皆様引き続き本校の教育活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

AED(自動体外式除細動器)、屋外型AED収納ボックスを寄贈していただきました。

新聞やテレビ等で報道されていますがさいたま市立中学校58校の正門の外にAEDが設置されることとなりました。これは、西区指扇にある株式会社小山本家酒造及び株式会社世界鷹小山家グループより、創業215周年を記念して、さいたま市にAEDと収納ボックス(総額2千万円相当)を寄贈していただいたものです。宮前中には31日に設置されました。「ASUKAモデル」作成から10年の節目を迎えたのを機に昨年9月30日に「ASUKAモデルフォーラム」が開催されました。その中で、地域にあるAEDの台数が少ないことや、24時間使用できるAEDが少ないことが問題提起されました。地域の方も利用することができるAEDを学校の校門等に設置し、市全体の安全度を高めていく目的から設置されたものです。万が一の時には正門脇にAEDがありますので積極的な活用をお願いします。